

## 30日 月曜

### I サムエル

4:12 一人のベニヤミン人が戦場から走って来て、その日シロに着いた。衣は裂け、頭には土をかぶっていた。

4:13 彼が着いたとき、エリはちょうど、道のそばの椅子に座って見張っていた。神の箱のことを気遣っていたからであった。この男が町に入って来て報告すると、町中こそって泣き叫んだ。

4:14 エリがこの泣き叫ぶ声を聞いて、「この騒々しい声は何だ」と言うと、男は大急ぎでやって来てエリに知らせた。

4:15 エリは九十八歳で、その目はこわばり、何も見えなくなっていた。

4:16 男はエリに言った。「私は戦場から来た者です。私は、今日、戦場から逃げて来ました。」するとエリは「わが子よ、状況はどうなっているのか」と言った。

4:17 知らせを持って来た者は答えて言った。「イスラエルはペリシテ人の前から逃げ、兵のうちに打ち殺された者が多く出ました。それに、あなたの二人のご子息、ホフニとピネハスも死に、神の箱は奪われました。」

4:18 彼が神の箱のことを告げたとき、エリはその椅子から門のそばにあおむけに倒れ、首を折って死んだ。年寄りで、からだが重かったからである。エリは四十年間、イスラエルをさばいた。

4:19 彼の嫁、ピネハスの妻は身ごもっていて出産間近であったが、神の箱が奪われて、しゅうとと夫が死んだという知らせを聞いたとき、陣痛が起こり、身をかがめて子を産んだ。

4:20 彼女は死にかけていて、彼女の世話をし



ていた女たちが「恐れることはありません。男の子が生まれましたから」と言ったが、彼女は答えもせず、気にも留めなかった。

4:21 彼女は、「栄光がイスラエルから去った」と言って、その子をイ・カボデと名づけた。これは、神の箱が奪われたこと、また、しゅうとと夫のことを指したのであった。

4:22 彼女は言った。「栄光はイスラエルから去った。神の箱が奪われたから。」

神様の栄光が去ってしまった民族、また家族、そして個人の悲惨さが表されています。神は御心を行うものと共におられますが、当時のイスラエルのように、またエリの息子たちのように、御心を無視するものはおられません。

エリは信仰がありましたが、次世代を育てるにあたっては、叱責する勇氣や育てるための氣力がなく、また不信仰がまねく結果について楽観していたようです。彼は「神の箱は奪われました。」との報告にショックを受けて落ちてしまったのです。

「自分はクリスチャンだから何とかなるだろう」とたかをくくって考えないようにしましょう。主はあわれみ深い方ですが、だからこそ主を愛して喜んでいただけるように、主を第一として生きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？

